百人一首

85番から88番

年　月　日　曜日

名前（　　）

百人一首を書きましょう。

夜もすがらもの思ふころは明けやらぬ
ねやのひまさへつれなかりけり

【現代語訳】
一晩中つれない人を思って物思いをしているこの頃は、なかなか世が明けずに寝室の隙間までも無情に感じられる。

俊恵法師

嘆けとて月やはものを思はする
かこちがほなるわが涙かな

【現代語訳】
嘆（なげ）けといって月は私に物思いをさせるのであろうか。そんな訳もないのに、かこつげがましくこぼれる私の涙よ。

西行法師

村雨の露もまだ干ぬまきの葉に
霧立ちのぼる秋の夕暮

【現代語訳】
村雨（むらさめ）がひとしきり降り過ぎ、その露もまだ乾ききっていないまきの葉のあたりに、霧が立ち上っている。そんな秋の夕暮れであるよ。

寂蓮法師

難波江の蘆のかりねのひとよゆゑ
身を尽くしてや恋ひわたるべき

【現代語訳】
難波の入江に生えている蘆（あし）の刈根の一節のように、一夜の契りのためにわが身をつくして、これからずっと貴方を恋い続けなければならないのでしょうか。

皇嘉門院別当

介護現場・認知症予防応援サイト
脳トレの効果
OK プリント使用・ダウンロード無料、施設での利用可
NG 他サイトでの再配布・複製・譲渡など不可
https://orange665.com/